

関係者に聴く



劇団  
ドリーム☆キッズ会長  
金城由里子さん

劇団には、現在33人の小中高生が所属。息子も3年前に入団し、楽しく過ごしています。団員は、年齢の違う仲間と長く同じ時間を過ごしていることから、兄弟のように仲が良いです。悩みやつらいことがあっても、それを乗り越えられるのは、隣で笑ってくれる仲間がいるから。その成果と活動を支えてくださる多くの人たちの力があってこそ、公演を成功裏に終えることができたと思っています。



主人公「サチ」を演じた  
浅野美咲さん  
佐沼小6年

自分が主役になると思わなかったのが、本当にびっくりしました。内向的で自分の意見を言えないサチと私は正反対。どうしたらサチになれるかすごく悩みました。気持ちを吐き出す場面の稽古しているときに、そのまま泣いてしまいました。そこで自分の思いを吐き出したのと、仲間たちが励ましてくれたおかげで、うまく表現できるようになりました。これからはいろんな役ができるよう頑張っていきます。

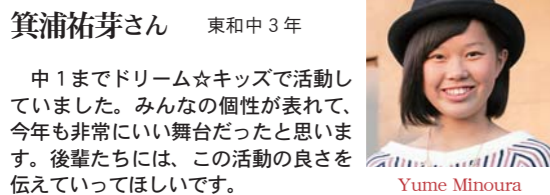
観客に聴く



高橋心月さん 佐沼小3年

友達が出演しているので見に来ました。面白いせりふがあって、私はお母さんと一緒に笑いました。みんな、演技も踊りも上手ですごいなって思いました。とても楽しかったです。

Miduki Takahashi



箕浦祐芽さん 東和中3年

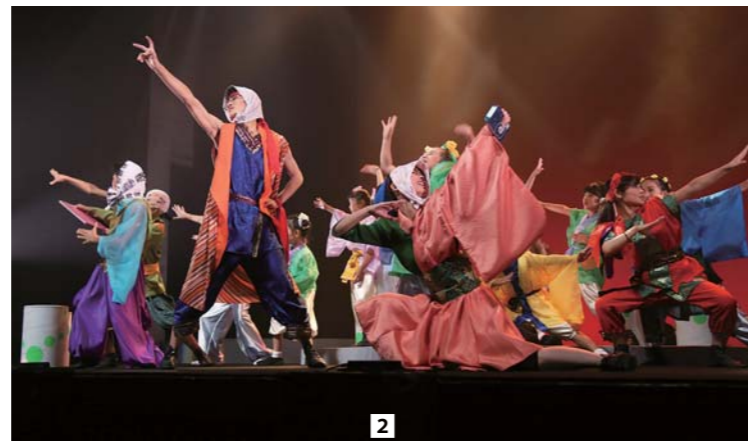
中1までドリーム☆キッズで活動していました。みんなの個性が表れて、今年も非常にいい舞台だったと思います。後輩たちには、この活動の良さを伝えてほしいです。



日野且也さん 迫町大綱西

スポ少でフットサルを教えており、所属している子の演技を見に来ました。舞台上で、物怖じせずに演技する姿を見て感動しました。大人が見ても楽しめるので、来年も来たいと思います。

Katsuya Hino



1感動のクライマックスシーン。内向的で自分に自信が持てなかったサチだが、仲間となった風の精霊たちの後押しと自らが一歩を踏み出して、その壁を越えた。サチや仲間たちの喜びを全身で表現する団員たち2子どもたちを見守る登米の大地をイメージした風の精霊たち。彼らの存在は、観客に「自分一人ではない」というメッセージが伝えられている。重要な脇役であり、精霊たちの名演が主役のサチを引き立たせた3舞台前半、同級生たちに背景画のチーフを押し付けられるサチ。自分が我慢すればいい。しかしこのままではだめだという心の葛藤が伝わるシーン4本番前の楽屋。役者をメイクするスタッフ。裏で支える人がいなければ舞台は成立しない5サチとは正反対の、自由奔放で天真爛漫な姉ユキエ。サチはユキエをうらやむ。しかし、ユキエはサチの持つ絵の才能などを高く評価。ユキエもまたサチをうらやんでいた67年前、偶然出会った星姫の似顔絵を描いたサチ。別れ際「似顔絵を描いてあげる」と約束をしていたのだ。そして精霊たちの協力もあり、約束を思い出す。姉月姫への嫉妬が消えた星姫の顔は、当時と変わらぬ優しい笑顔だった7舞台終了後、観客を見送るキャストたち。公演の成功を握手で祝う観客



# 仲間とつかんだ勇気

## ミュージカル公演「約束の風～君のそばにいるよ～」

市内の小中高生を中心に活動するミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」の第13回ミュージカル公演「約束の風～君のそばにいつもいるよ～」(公益財団法人登米文化振興財団主催)は9月12、13の両日、登米祝祭劇場で開かれ、出演者の熱演に約1200人の観客が魅了された。



あらすじ

夏休みを控えた、ある日の放課後。水の里中学校では、1年生の各クラス代表者が、秋の文化祭で発表する劇の内容を話し合っていた。  
演目は登米市の民話「お月さまとお星さま」。積極的に意見を述べる人、それを批判する人、仕方なく参加している人。議論の中、サチは見るとはなしに、校庭を眺めていた。内向的で自分に自信が持てないサチは、絵がうまいというだけで代表に選ばれた。「私は背景の絵を描くだけ。ただそれだけ」

それよりもサチは、身の回りで最近起きている奇妙なことが気になっていた。夏なのに桜の花びらが風に乗って飛んできたり、雪だるまが追いかけてきたり。  
サチはすっかり忘れていたのだ。7年前の約束を。サチを待っている人がいることを、登米の大地を守る精霊たちが必死で伝えようとしていたのだ。